

みんなとともに笑顔いっぱい — 創立百周年 その先の未来へ みんなとともにスマイルミッション —



みんなとともに



県小学校長会の仕事で、相双地区の校長先生方から各校の現状について話を聞く機会がありました。未だ地元に戻れず、避難先である二本松市、会津若松市、いわき市、三春町で開校している学校もありました。東日本大震災から8年が経ちその記憶も薄れかけていますが、「まだ終わってはいない」という思いを持ちました。先日の緊急地震速報は、さらにその思いを強くする出来事でした。



航空写真の撮影がありました

6月17日(月)に「航空写真」の撮影を行いました。これは、「創立百周年記念事業」の一環として行ったものです。

撮影した写真は「式典の要項」等に使われるとともに、「航空写真の印刷されたクリアファイル」が子どもたちに「記念の品」として配られることになっています。

また、全校児童の集合写真、学級ごとの集合写真も撮影しました。これらは業者の方から注文の依頼があり、各自購入するようになります。



歴史フィールドワーク

6月19日(水)、6年生が、「ふれあい歴史館」職員等の協力を得て、「歴史フィールドワーク」を行いました。

まず、10名ずつ3班に分かれて、地域の史跡を見て回りました。

その後、学校へ戻り、街の成り立ち等についての話を伺いました。



本の中にある歴史を身近に感じたひとときでした。

このように外部の方々とともに、子どもたちを育てています。

「英語」を通じた国際理解教育

6月17日(月)、1年生と2年生が、特別非常勤講師のマリールイズ先生から、英語の学びを通して、異文化理解の大切さを教えていただきました。

マリールイズ先生は大変忙しく、7月末まで日本にいたら、またルワンダに行くそうです。戻ったら、他の学年の授業があります。



【校長のつぶやき】 その16 「市内で一番の子どもたちに」

本校の子どもたちは、「指導が入る」子どもたちである。ポイントを押さえた指導をすればするほど、期待に応えて変容してくれる。それだけ「素直」なのだと思う。でも、指導をやめるとその効果が減っていくのも事実である。

ならば、「子どもに根負けしない」で指導をし続けたらどうだろう。それは、いつか「よい習慣」として根付くのではないだろうか。

本校は、全校児童が185名である。指導が浸透しやすい規模である。学校と家庭が手を取り合って子どもに「根負けしない」取り組みを続けていけば、すべてにわたって「市内で一番の子どもたちに育てる」のも可能であると考えている。